

報道機関各位

令和6年酒田港の取扱貨物量について（速報値）

概 要

酒田港の令和6年取扱貨物量は、外貿貨物（輸出入）が1,808,393トン（前年比-1.7%）、内貿貨物（移出入※1）が861,030トン（前年比+0.6%）、全貨物量が2,669,423トン（前年比-1.0%）となった。

コンテナ貨物量（実入りコンテナ）は、輸移出・輸移入合計が6,328TEU※2（前年比-31.9%）となった。また、コンテナ取扱個数（空コンテナ込）は、輸移出・輸移入合計が9,940TEU（前年比-30.3%）となった。

リサイクル貨物量は、輸移出・輸移入合計が413,284トン（前年比+23.3%）となった。

酒田港国際ターミナル

令和6年取扱全貨物量の概要

- ・・・別紙参考資料-1

令和6年コンテナ貨物量の概要

- ・・・別紙参考資料-2

令和6年リサイクル貨物量※3の概要

- ・・・別紙参考資料-3



※1 「移出」：貨物を国内の他の地域へ送り出すこと。「移入」：貨物を国内の他の地域から移し入れること。

※2 「TEU」：20フィートコンテナ換算のコンテナ取扱量の単位。40フィートコンテナ1個は2TEU。

※3 平成15年に酒田港は、国土交通省から、生産や消費活動で排出されたものの輸送の拠点となる総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）の指定を受けた。

令和6年取扱全貨物量の概要

取扱全貨物量については、グラフ1のとおり、外貨貨物が1,808,393トン（前年比-1.7%）、内貨貨物が861,030トン（前年比+0.6%）、合計が2,669,423トン（前年比-1.0%）となった。

上位5品種については、表1のとおり、「木材チップ及び薪炭」、「砂利・砂」が増加したが、「石炭」、「揮発油及びその他の石油」、「窯業品」は減少した。

「石炭」が全体の54.0%を占めており、また、上位5品種で酒田港全貨物量の80.6%を占めている。

グラフ1 過去5年間の全貨物量の推移

（単位：万トン）

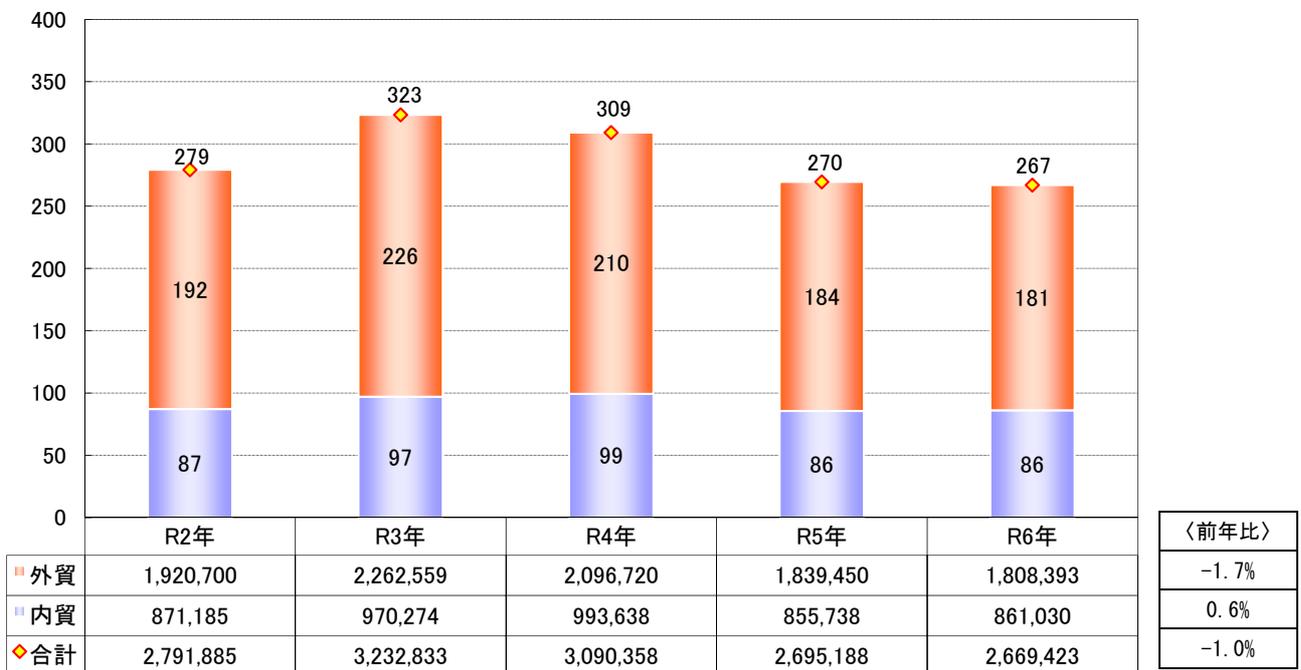


表1 主要品種別の貨物量の推移

（単位：トン）

品 種	R2	R3	R4	R5	R6	割合	前年比 R6/R5
石炭	1,449,986	1,783,713	1,706,517	1,487,795	1,440,228	54.0%	-3.2%
揮発油及び その他の石油	330,869	326,517	311,503	293,087	292,012	10.9%	-0.4%
木材チップ及び 薪炭	106,153	121,566	112,287	96,612	192,382	7.2%	99.1%
窯業品	131,619	188,847	198,058	151,973	138,589	5.2%	-8.8%
砂利・砂	12,794	34,479	79,533	84,613	88,255	3.3%	4.3%
その他	760,464	777,711	682,468	581,108	517,957	19.4%	-19.6%
合計	2,791,885	3,232,833	3,090,358	2,695,188	2,669,423	100.0%	-1.0%

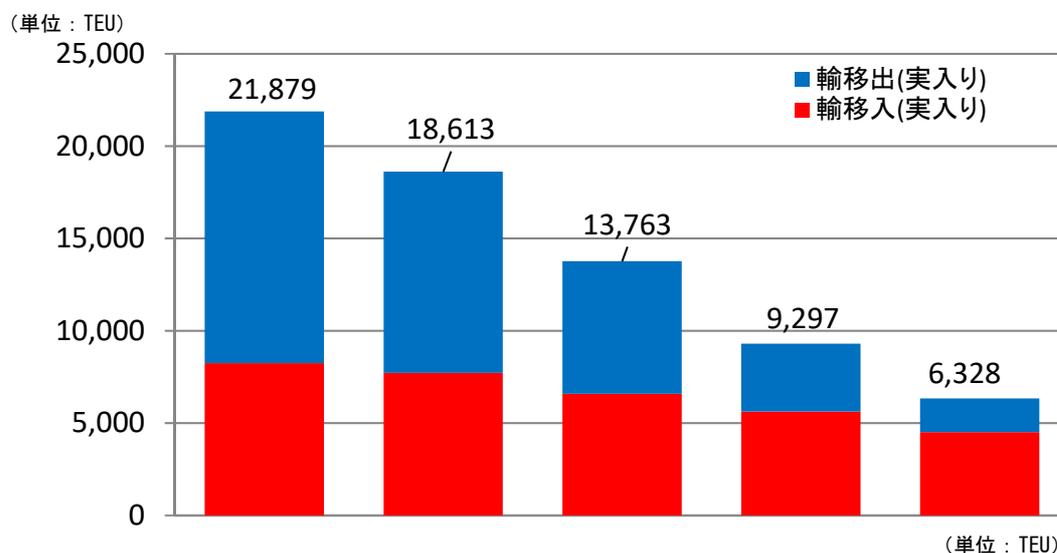
※ 「揮発油」及び「その他の石油」は、平成29年までの「石油製品」が、平成30年度から細分化された品種であるが、前年までとの比較のため、本資料では2つの品種を合算して計上した。

令和6年コンテナ貨物量の概要

コンテナ貨物量(実入りコンテナ)については、グラフ2のとおり、輸移出が1,823TEU(前年比-50.4%)、輸移入が4,505TEU(前年比-19.9%)、輸移出入合計が6,328TEU(前年比-31.9%)となった(コンテナ取扱個数(空コンテナ込み)については、【参考】のとおり)。

品種別では、表2のとおり、輸移出量上位5品種では「原木」、「その他製造工業品」が増加し、「その他日用品」、「再利用資材」、「自動車部品」が減少した。輸移入量上位5品種では「豆類」、「製造食品」、「木材チップ及び薪炭」が増加し、「化学薬品」、「自動車部品」が減少した。

グラフ2 過去5年間のコンテナ貨物量の推移



種別	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	〈前年比〉	
実入りコンテナ	輸移出	13,634	10,897	7,184	3,675	1,823	-50.4%
	輸移入	8,245	7,716	6,579	5,622	4,505	-19.9%
	合計	21,879	18,613	13,763	9,297	6,328	-31.9%

【参考】

種別	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	〈前年比〉	
空コンテナ	輸移出	4,864	4,395	4,424	3,321	2,948	-11.2%
	輸移入	9,275	7,938	3,843	1,643	664	-59.6%
合計(空コンテナ込)	36,018	30,946	22,030	14,261	9,940	-30.3%	

表2 主要品種別のコンテナ貨物量の推移

品 種	輸 移 出						輸 移 入						
	R2	R3	R4	R5	R6	前年比 R6/R5	品 種	R2	R3	R4	R5	R6	前年比 R6/R5
原木	36	64	0	191	354	+85.3%	化学薬品	656	716	733	724	714	-1.4%
その他製造工業品	328	299	250	282	299	+6.0%	豆類	541	559	323	330	668	+102.4%
その他日用品	11,488	8,990	5,545	2,059	252	-87.8%	製造食品	927	906	627	613	627	+2.3%
再利用資材	390	410	254	238	212	-10.9%	木材チップ 及び薪炭	461	52	494	10	249	+2390.0%
自動車部品	264	297	192	196	179	-8.7%	自動車部品	599	629	622	482	241	-50.0%
その他	1,128	837	943	709	527	-25.7%	その他	5,061	4,854	3,780	3,463	2,006	-42.1%
合 計	13,634	10,897	7,184	3,675	1,823	-50.4%	合 計	8,245	7,716	6,579	5,622	4,505	-19.9%

※四捨五入の関係上、内訳項目を合計したものが、合計と一致しない場合がある。

令和6年リサイクル貨物量の概要

リサイクル貨物量については、グラフ3のとおり、合計で413,284トン（前年比+23.3%）であった。

リサイクルポートに指定された平成15年の196,821トンと比較すると、約2.1倍となっている。

品目別では、表3のとおり、「バイオマス燃料」、「金属くず」が増加し、「石炭灰」、「鉄鋼スラグ」、「中古品（自動車部品等）」、「廃プラスチック」が減少した。

グラフ3 リサイクル貨物量の推移

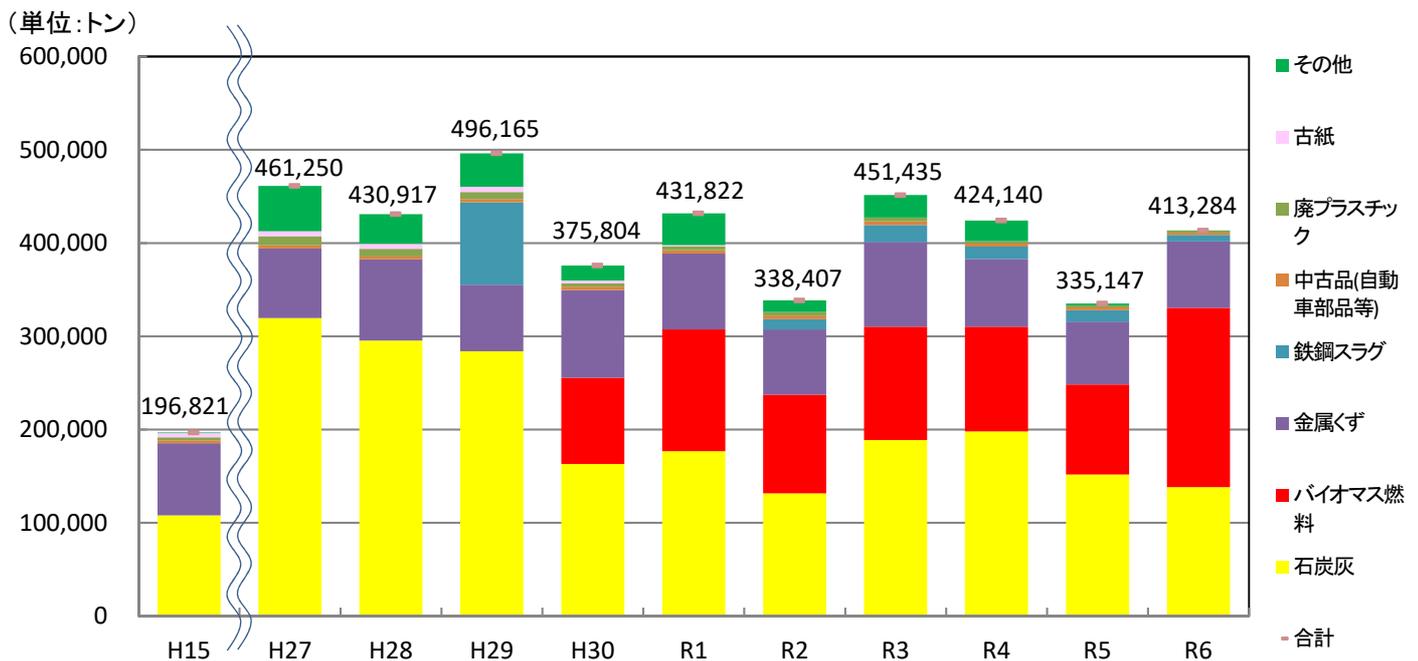


表3 主要品目別のリサイクル貨物量の推移

(単位:トン)

主要品目	H15	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	前年比
石炭灰	107,963	319,513	295,305	283,834	163,094	176,811	131,581	188,800	198,037	151,774	138,210	-8.9%
バイオマス燃料	0	0	0	0	92,335	130,454	105,837	121,450	112,194	96,512	192,282	99.2%
金属くず	77,430	74,657	87,188	71,360	93,968	81,283	69,873	90,884	72,626	67,417	71,094	5.5%
鉄鋼スラグ	0	0	0	88,375	0	0	11,000	18,060	13,360	12,130	7,000	-42.3%
中古品(自動車部品等)	2,948	3,420	3,142	3,601	3,766	3,626	3,940	4,030	3,160	3,040	2,540	-16.4%
廃プラスチック	3,260	9,658	8,180	7,500	3,720	4,320	3,840	4,100	2,540	2,380	2,138	-10.2%
古紙	4,560	5,360	5,200	5,580	2,860	1,220	0	0	0	0	0	-
その他	660	48,642	31,902	35,915	16,061	34,108	12,336	24,111	22,223	1,894	20	-98.9%
合計	196,821	461,250	430,917	496,165	375,804	431,822	338,407	451,435	424,140	335,147	413,284	23.3%